

[教育方法一般]

学習方法を身に付け、自ら学ぶ生徒の育成

— 家庭学習の定着を目指す取組 —

南 幸江*

1 問題の所在

中央教育審議会は平成17年10月に発表した答申「新しい時代の義務教育を創造する」の中の「(2)教育内容の改善, ア基本的な理念目標」において、「学ぶ意欲の向上」「学習習慣の確立」を課題として挙げている。また、平成16年12月に公表されたPISA調査結果分析によると、我が国の子どもたちの学力は、国際的に見て成績は上位にあるものの、①判断力や表現力が十分に身に付いていないこと、②学習が好きだと思う子どもが少ないなど、学習意欲が必ずしも高くないこと、③学校の授業以外の学習時間が少ないなど、学習習慣が十分身に付いていないことなどの点が課題として指摘されている。

当校の教育目標は「おおらかに、たくましく生き抜く生徒の育成」である。学習面での達成目標の一つとして、「1時間以上家庭学習をする生徒が80%以上」を挙げている。生徒の授業に取り組む姿勢は良好で、学期末に行う生徒アンケートの中で「授業の内容がわかる」と答える生徒は8割以上である。しかし、NRTや全国学力調査の結果をみると、全国と同程度か、もしくはそれを下回る教科がある。また、家庭学習の時間が1時間以上の生徒は半数以下という結果である。「授業中はわかる」が、それが学力として定着していないという現状は、家庭学習が習慣化されていないことが一つの要因ではないかと考える。

また、「自ら学ぶ」力や習慣を確立することによって、単に知識や技能を定着させることだけでなく、身に付けた知識・技能を基盤として自ら課題を見つけ、学び続けていくことは、ひいては生涯学習につながる能力を身に付けていくこととなる。以上のことを踏まえ、本研究をスタートすることとした。

2 研究の目的

家庭学習における自主的な学習に、仲間と励まし合いながら、生徒自身に工夫して取り組ませることで、生徒の学習への意欲が向上し、学力の定着につながることを検証する。

3 研究の内容と方法

昨年度まで、校内に組織されている学力向上プロジェクトチームの一員であり、生徒の家庭学習定着のための支援について、チームで協議し、全校体制で取り組むことになった。まず、取組内容について、職員間で共通理解を図るとともに、生徒自身が自分たちの家庭学習が少ないことに問題意識を持てるよう学活で話し合ったり、家庭の協力を得られるよう便り等で啓発したりした。

今年度は、学力向上プロジェクトチームの主任として、昨年度までの活動を継続しつつ、新たな取組を実施した。

「自主学習タイム」を終学活時に設け、生徒が家庭学習の計画を立てる時間とした。家庭学習の内容については、各教科からの宿題と自主学習とし、自主学習の進め方について4月の全校集会で、生徒に指導した。自主学習の具体的な内容については、一覧表を作成し、各教科担任が丁寧に指導をした。また、2年生の45名には、自主学習の優秀例を掲示したり、自主学習コンテストを実施したりして、生徒同士が評価する機会を設定した。

研究の検証については、2年生の45名を対象に、昨年度と今年度1学期末の自主学習の取組の様子と生徒アンケート結果の比較、また第4回定期テスト(平成26.2月実施)と第1回定期テスト(平成26.6月実施)の結果を比較し、変容を分析する。

* 上越市立浦川原中学校

4 実践の概要

(1) 昨年度までの実践

① 職員間の共通理解

- ・宿題を毎時間必ず出し、点検を行う。
- ・「宿題黒板」(図1)を活用する。
各教室に宿題黒板を設置し、宿題が出されたら、係が黒板に記入する。

② 自主学習の取組への支援

- ・各学年で自主学習の推進と点検を行う。
1学年では、「自主学習ノート100%提出キャンペーン」(図2)を実施し、約1か月間100%提出を達成できた。

- ・「自主学習一覧表」(表1)を作成し、教室掲示する。

- ・自主学習プリントを提供する。

計算プリントを用意し、教室の背面にプリント棚を設置。自主学習ノートに貼って取り組んでもよいこととした。

③ 生徒への啓発

- ・各学年で、学級活動で家庭学習の改善について話し合う。

学級活動の時間に、自学級のNRTの結果や家庭学習時間のアンケート結果、保護者のアンケート結果など(図3)を示し、現状の問題点を確認した。

また、新潟県と全国の家庭学習時間の平均を示し、家庭学習時間が不足していることに気付かせた。生徒自身に問題意識と改善していこうという気持ちをもたせる良い機会となった。

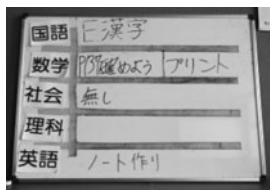


図1 宿題黒板

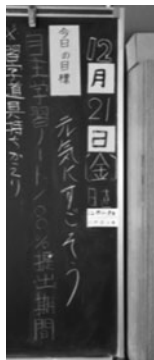


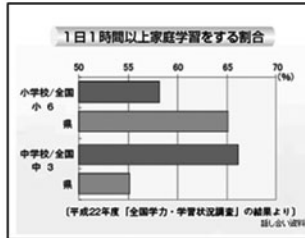
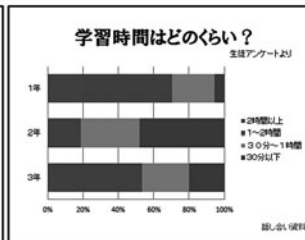
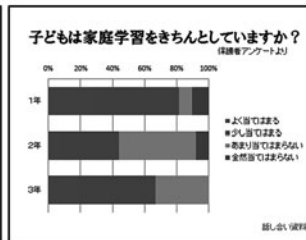
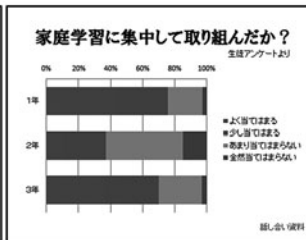
図2 自主学習ノート提出キャンペーン

表1 自主学習一覧表

教科	内容・方法
国語	次の挙げたような内容を、自分で選択「自学ノート」にやる。 ① 漢字の漢字(読み・書き)を繰り返す。 ② 「ワーク」の問題を、覚えてしまふまで繰り返す。 ③ 「読書」の感想を書く。 1回やって終わりではなく、何回も何回も繰り返すことが大切！ 全てに取り組んでもOKです！
社会	① 教科書や参考書を複写する。※大切な部分は色をつける。 ② 教科書や資料集などの図やグラフやまとめを複写する。※カラフルに ③ ワークの問題をやる。※○つけもするよ！ ④ 重要語句(教科書の太字)を何冊も書いて覚える。 ⑤ 重要語句(教科書の太字)の意味を調べてノートにまとめる。 ⑥ 授業のノートをもっと一度とめる。 ※ 社会科は工夫すると楽しくできます。ぜひやってみてください。
数学	学習の手順例 ※①から④を繰り返す ① 「教科書」や「ワーク」の問題(計算の反復練習)を自学ノートにやる。 ② 丸つけて、間違えた問題は、復習や解説をよく読む。 ③ 間違えた問題の番号に印をつけ、翌日、その問題だけもう一度やってみる。 ④ 丸つけて、OKなら次に進む。間違っていたら、やり方を理解していないので、友達や先生に質問する。
理科	復習より学習中心に自主学習に取り組む。 ① 学習として、 ・教科書をよく読む。 ・実験装置や実験手順を確認し、実験上の留意点をノートにまとめる。 ② 復習として、 ・レポートに実験結果をまとめる。 ・実験結果を考察する。 ・理科の自主学習の問題を解く。
英語	次の①から④の順番で自分のレベルに合わせて「自学ノート」にやる。 ① 教科書、新出語句の太字の単語を書き取るように練習する。 ② 教科書、左上の「覚えよう」を何回も音読して覚える。 ③ 授業で学習したページの「ワークの問題」をノートにやる。 ※ PROGRAMごとに①～④をやってみよう！、①だけ学習したところの PROGRAMまで全部練習してもよい。自分で選択してください。

NRTの結果(H23. 3月実施)

	国語	社会	数学(算数)	理科	英語
1年生(小405名)	52.3	53.4	48.9	54.3	
2年生(中105名)	53.6	53.4	50.5	54.4	49.2
3年生(中205名)	51.1	48.6	49.0	52.0	47.4



アンケートや学力テストからわかったこと

- ・「授業の内容はわかる」は90%
- ・学力テストでは、落ち込んでいる教科がある(H23. 3月実施)
- ・家庭学習の取組状況は、良いとはいえない

みんなで家庭学習に取り組もう

みんなで頑張るために、
学年の自学目標時間
を決めよう。

私たちの学年は
1日 分 学習します!

自学カードで計画をたてよう

図3 「家庭学習改善」のための資料

④ 家庭への啓発

- ・学級だよりに家庭学習への取組方法や途中経過をグラフなどを用いた資料(図4)を掲載した。

これらの実践を通して、全校生徒の家庭学習時間が一人当たり平均8分増え、保護者の評価も上昇した。自主学習ノートの提出率も向上したが、内容面での課題が残った。また、未提出の生徒の固定化が見られるため、より丁寧な支援していく必要性が課題として残った。

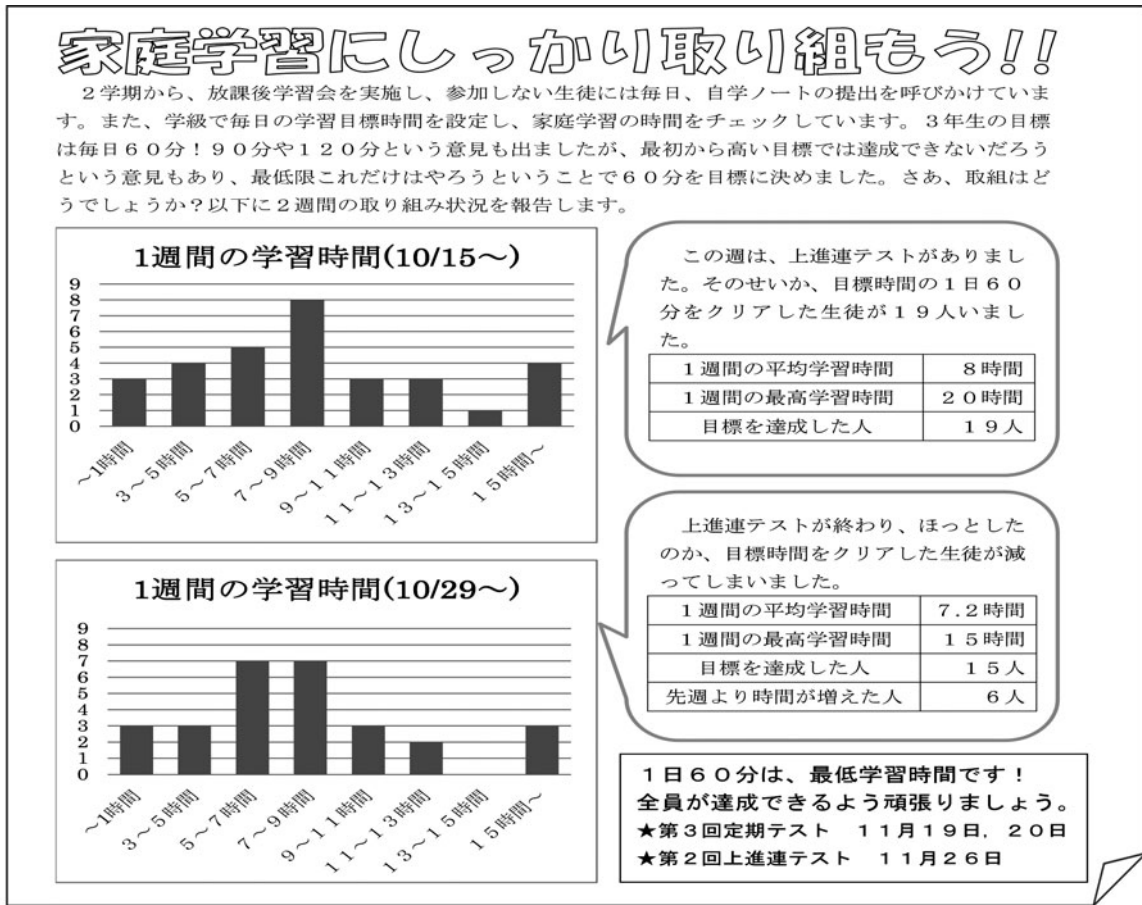


図4 学級だより

(2) 今年度の実践の概要

① 終学活での「自主学習タイム」の推進

今年度より終学活を5分延長し、15分間設定することにした。

〈終学活始めの流れ〉

1分間の黙想 → 2分間の今日一日の振り返り（デイリーライフへの記入 → 3分間の今日の自主学習の計画立て

4月の学校生活についての生徒集会で、学習計画の立て方や自主学習の進め方について全校生徒に説明した。(図5)

家庭学習について 学力向上プロジェクト	宿題について 授業で宿題がでる ↓ 教科係が宿題ボードに記入する	自主学習について ・自学ノートを作成する。 ・毎日、提出する。	自主学習の内容 ・3年生は新研究 ・各種検定の学習 ・ワークの問題をノートにやる 自学としてOK!	自主学習の内容 ・宿題 ※もう一度自学ノートにやるのはOK ・ワークを提出 自学としてNG!	自主学習の目標 1日1ページ ・全学年共通 ・最低限の目標!
-------------------------------	--	--	---	---	---

自学ノートは毎日提出させ、学年担当職員がチェックをする。また、生徒の学習係が提出の呼びかけをする。

【自学ノート記入例】

4/10(木)	PM 9:00 ~ 10:00
★今日の宿題	
・英語のビンゴシート	
・数学のワーク P5	
★今日の自学	
・国語の漢字練習	
・理科のプリントをノートに貼る	

1行目に日付と学習予定時間
2行目から今日の宿題
その下に今日の自主学習内容を記入

以下に 自学を取り組む

図5 全校生徒説明資料

終学活の時間、3つのそれぞれの時間で音楽を変えて流すことにより、各活動を全員そろってスムーズに進めることができるようになった。4月当初は、何をしてよいかわからず計画が立てられない生徒がいたため、「自主学習タイム」後、班で確認させる時間をとった。

② 自主学習内容の充実

4月に各教科担当者が、自主学習として薦める内容を生徒に指導した。

表2 自主学習例

教科	自主学習内容例
国語	「E漢字」を利用した漢字練習。新聞のコラムを書き写し、感想を書くなど。
社会	教科書を視写する。図やグラフをまとめる。重要語句の意味をまとめ、何度も書く。
数学	授業で学習した例題や問をもう一度やる。ワークの問題をノートに練習する。
理科	学習した内容について、図を取り入れるなどしてまとめる。ワークの問題をノートにやる。
英語	単語練習。教科書の英文を視写する。ワークの問題をノートにやる。

しかし、1学期の生徒の様子をみていると、学習内容のマンネリ化が見られた。毎日、漢字練習をしたり、理科の元素記号ばかり書いたりしている生徒がいたので、1学期半ば、2年A組22名の生徒を対象に「自主学習アンケート」を実施した。結果を次に示す。

	A	B	C	D	
ほぼ毎日実施できたか。	6人	8人	5人	3人	A：とても良い B：どちらかというといよい C：どちらかというのできていない D：できていない
内容は工夫してできたか。	4人	9人	5人	4人	

家庭学習の時間（平均）	1時間以上2時間未満	30分以上1時間未満	30分以下
	12人	7人	3人

〈自主学習で頑張ったこと〉

- ・時間を決めて取り組めた。
- ・毎日取り組んだ。
- ・いろいろな教科に取り組めた。
- ・苦手なことに取り組んだ。
- ・見やすいように書いた。

〈自主学習での悩み〉

- ・同じ教科に偏った。(多数)
- ・長時間取り組めない。
- ・何をやればいいのかわからない。
- ・字が乱雑。
- ・集中してできない。
- ・中身が薄い。

アンケートから、やはり学習内容に対する悩みをもつ生徒が多いことがわかった。そのため、自主学習の優秀例を掲示し、それぞれの良さを紹介した。これを参考に取り組む生徒も見られた。これらのことを受け、次の3点に取り組むこととした。

・自主学習ノートの使い方の再指導

4月当初に指導したことをもう一度確認した。

・自主学習内容の再指導

2学期開始時に教科担任から、授業の中で再度、自主学習内容を指導してもらった。特に、国語では、文章を書くという活動を薦めた。入試に向け、今後、ある程度の字数のまとまった文章を書くという活動はこれまで以上に重要視されてくる。その力は、突然付くものではなく日々の積み重ねの結果である。その点も踏まえ生徒に指導した。また、「Web配信集計システム」の過去問題を用意し、ノートに貼って学習できるようにした。

・「自主学習ノートコンテスト」の実施と生徒同士の相互評価（図7）

学級の自主学習係に提案し、協力を得た。自主学習係と相談して、出品ノートを選んだ。出品ノートを見せると「おー」「すごい」「誰の？」などという、声が聞かれた。それぞれの良い点と真似したい点をプリントに記入させ、



図6 自主学習優秀例の掲示

最優秀賞と優秀賞を選ばせた。その結果を以下に示す。

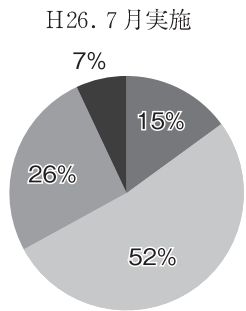
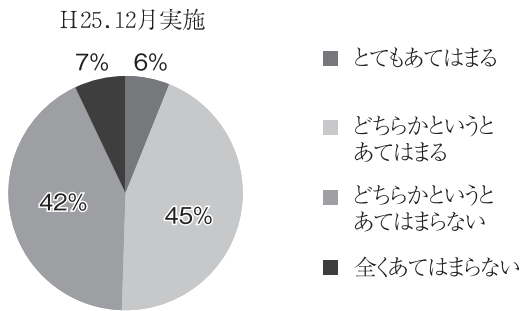
〈最優秀賞〉	〈優秀賞〉
<p>【コメント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・字がきれい。 ・内容が工夫されている。 ・見やすく、丁寧。 ・ノートをうまく使っている。 ・何を使って自主学習をしたか書いてあっていい。 	<p>【コメント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・間隔をあけて見やすく丁寧に書いてある。 ・うまくまとめている。 ・漢字練習も工夫されている。 ・説明（ポイント）が書いてあり分かりやすい。

図7 自主学習ノートコンテスト

5 結果と考察

(1) 生徒アンケートから（2学年45名）

① 家庭学習に集中して取り組みましたか。



② 1日の家庭学習の時間（平均）

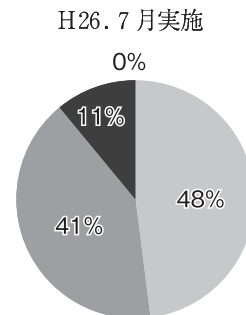
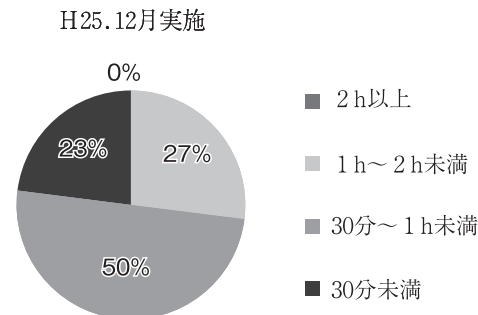


図8 家庭学習生徒アンケート結果

どちらのアンケートも数値の向上が見られた。目標とする「1時間以上家庭学習をする生徒が80%以上」には届かないが、昨年度と比較すると大幅な時間の増加が見られる。今年度の取組の成果の表れであると考えられる。

(2) 定期テスト結果から

テスト内容が異なるので、一概には言えないが、図9の度数分布のように、全体的に合計得点が上昇していることがわかる。また、個々の生徒の得点の変化をみると、学力の低い生徒が大幅に得点を上げている傾向が見られた。今まで学習習慣のなかった生徒にとってこの取組は一定の効果が見られたのではないかと考える。

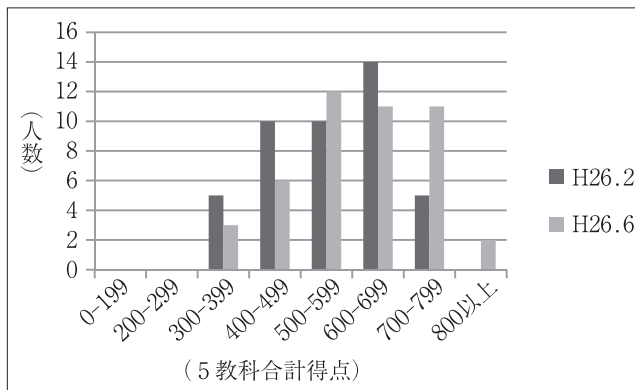


図9 2年生45名の5教科合計得点度数分布

(3) 生徒の自主学習ノートから (図10)

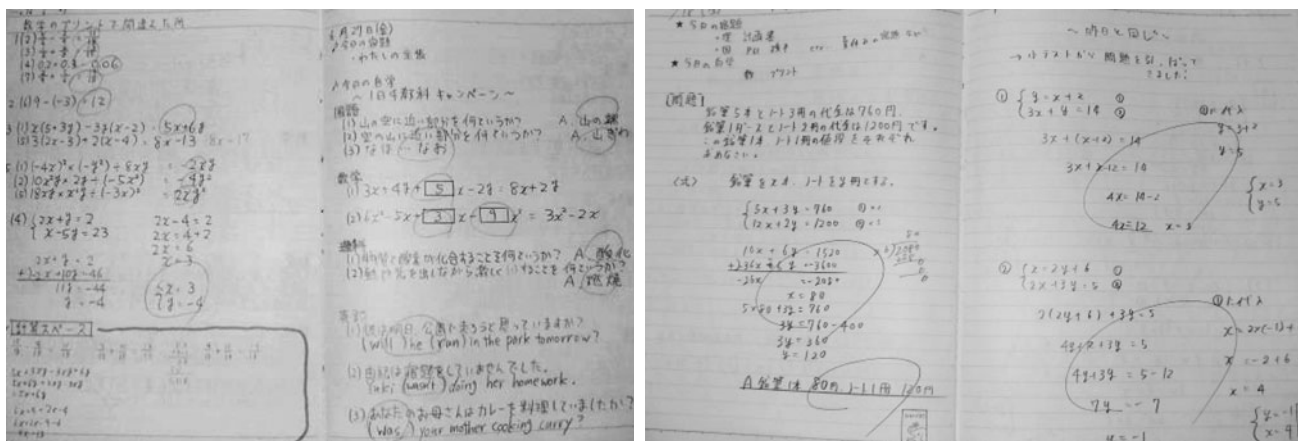


図10 工夫された自主学習ノート

それぞれの生徒が自分で学習内容を決め、家庭学習に取り組んでいた。検定に向けての学習であったり、毎日の授業の復習であったりと、工夫して取り組む様子が見られた。色やイラストを付けてまとめたり、やり終えての感想を書いたりした生徒もいた。この自主学習の取組によって、生徒自身が自らの課題を見つけ、意欲的に学習できたと考える。

6 成果と今後の課題

これまでの実践で、生徒への自主学習の働きかけを定期的に継続することと、仲間同士での励まし合いや共通の目標をもつことにより、生徒の学習意欲が向上し、家庭学習の時間が増えたり、自分で工夫して取り組んだりということがわかった。また、これまで学習習慣がなかった学力低位の生徒の学力を向上させるのにも有効であると考えられる。

課題としては、自主学習に取り組まない生徒への対応があげられる。これまでは、定期的に昼休みや放課後に取り組ませていたが、生徒個々の状況に応じて、自主学習内容を一緒に考えたり、アドバイスをしたりするなど、寄り添った働きかけの必要性を感じる。また、家庭学習が充実していくように、日頃から教科担任が自主学習として薦める学習内容を生徒に示していくことがあげられる。Web配信集計システムや定期テストに向けての学習であったり、見直しであったり、予習であったりと、日常の授業に生かせたり、得点結果としてすぐに成果が現れたりするような内容であれば、さらに学習意欲の向上が期待できる。今後、より授業と結びついた自主学習を推進していきたい。

参考文献

草野啓顕・山下直子・榎原昭徳・竹下真生・鈴木 幸 「家庭学習・学習習慣・学習意欲の育成とノート指導(2)」
 山口大学教育学部研究論叢(第3部), 2006年